

研究・調査報告書

報告書番号	担当
261	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門
題名 (原題/訳)	
Alcohol consumption behavior of pregnant women in Japan 日本における妊婦の飲酒行動について	
執筆者	
Tamaki T, Kaneita Y, Ohida T, Harano S, Yokoyama E, Osaki Y, Takemura S, Hayashi K.	
掲載誌 (番号又は発行年月日)	
Prev Med. 2008 Nov;47(5):544-9. Epub 2008 Jul 29.	
キーワード	
飲取行動、妊婦、日本	
要旨	
<p>背景： 日本における妊婦の飲酒状況と、その関連を明確にすることを目的とし実施された。</p> <p>方法： 2006年2月に344の機関が調査に参加した。各々の対象者には匿名で自己記入式のアンケートの提出が求められた。妊娠中の飲酒と飲酒に関連した要因は、カイ二乗検定とロジスティック回帰分析を用いて解析された。</p> <p>結果： 18,965名より有効回答が得られた。妊娠が確認される前の飲酒状況と妊娠中の飲酒状況は、それぞれ44.6%と4.6%であった。次に示す内容は、妊娠中の飲酒を促進することと関係していると認められた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 妊娠週数が長くなる事 ・ 妊娠回数 ・ 学歴が短くなる事 ・ 仕事をしている事 ・ 妊娠が確認される前の飲酒習慣 ・ 妊娠中の喫煙 ・ 知識の低さ (アルコールが胎児に及ぼす影響について、飲酒しない事に対するアドバイスを受けられる機会について、睡眠の維持と日中の眠気について) <p>まとめ： 妊婦の飲酒を防ぐための指針を作成するために、本研究で明確になった妊婦の飲酒と関連した要因をより広範囲の理解をすることが非常に重要である。</p>	